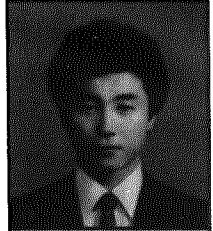


# 二十歳を迎えて

特集・成人式

今号は八月十五日(日)に成人式を迎える六人のかたに登場を願ひ、二十歳を迎えての抱負、成人の目から見た黒埼町などを述べていただきました。

今年の成人式は総合体育館で行われ、昭和三十六年四月二日から三十七年四月一日までに生まれた二百二十五人(男子百十二人、女子百十三人)が招待されます。



二十歳は  
スタートライン  
小林 弘幸  
(会社員 大野新町)

進学のために県外へ出て、卒業後就職のために県内へ戻ってくる。いわゆるUターンですがUターンする人たちが増えてきています。

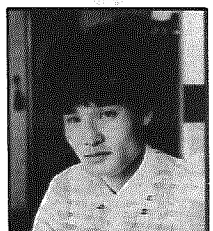
わたしもその一人です。高校卒業後、富山県の短大に進み、今年卒業して新潟市内のある会社に就職しました。親元を離れたの学生生活は、親からのうるさい小言も聞かなくてすみますし、何より自由で束縛がありません。だから、多くの若者を魅了するでしょう。

しかし、その反面親のありがたみも感じさせられてしまうのではないのでしょうか。

二十歳になって、学生から社会人になった人は少なくないと思います。人生の区切りのいいスタートだと思えます。また、自分自身で生活が早くできるようになりなれと思う気持ちを持つてくるころです。

成人となり、社会人の一員となつて改めて色々と考えさせられ、責任の重さも体で感じています。

二十一世紀になるころ、わたしたちはいちばんの働き盛りです。次の世紀は私たちが土台となるでしょう。そのためにも、今がとて大切なときだと思っています。



誠意を持って  
人と接つたい  
長谷川 正夫  
(会社員 大野五区)

学生生活を終え、早三年になる。社会に自分だけで、右も左もわからぬまま入っていったときばかりの不安を持っていた。最近、学校の教科書からでなく、自分自身の体全体で学び、成長していることがわかり始めた。

仕事から、毎日違った多くの人たちと会う。色々な性格の人を見る事ができる。だが、対応に頭を悩ますこともしばしばある。特に礼儀作法については気を使う。第一印象で相手に不快感を与えてしまえば、後々たいへんである。形ばかりでなく、自分で言う言おうと思つて言い慣れない言葉を使うと、相手に気持ち悪く伝わつてないというところがよくある。

誠意を持って対応しないと、決つて相手には気持ち悪く伝わらない。心の底から思い込まなければ、必ずどこかで相手に疑いを持たれてしまう。何気なく言つたことでも、相手に大きな不快感を与えてしまうこともありえる。

素直に自分自身を表現することによって、礼儀作法とは自然に身につけていくと思う。人と接つすることはむづかしい。十人十色で、人の個性も大きく違つてくる。精神的疲労をかなり感じる。しかし、やればやっただけの身返りは返つてくるのでメリットはある。

二十歳といつてももう二十一歳だが、これからも多くの人と出会いたい。こんな人もいるんだなと思えるように、新鮮な気持ちで失わずにいたい。友人に変わったなと言われても、自身の考えは変わらないと思つて。これからも色々なことを数多く学び、多くの経験を積んで一回りも二回りも大きな人間になりたい。それは何よりもむづかしいことかもしれないが……。



## 二十年の記録

- ▽三十六年(〇歳) 第二室戸台風により町内各所に被害
- ▽三十七年(一歳) ごみ焼却場完成
- ▽三十八年(二歳) 大野小学校体育館竣工
- ▽三十九年(三歳) 国体ウエイトリフティング会場となる
- ▽四十年(四歳) 町営ガス供給開始
- ▽四十一年(五歳) 日米対抗親善レスリング大会開く
- ▽四十二年(六歳) 八・二八水害で各地に被害
- ▽四十三年(七歳) 宗村宗二メキシコオリンピックで金メダル獲得(レスリンググレコローマンスタイル)
- ▽四十四年(八歳) 清水町長就任
- ▽四十五年(九歳) 北陸自動車道ルート発表
- ▽四十六年(十歳) 大野新町大一新幹線ルート発表
- ▽四十七年(十一歳) 政令指定に
- ▽四十八年(十二歳) 町政施行
- ▽四十九年(十三歳) 立小小学校完成
- ▽五十年(十四歳) 県立黒埼高等学校開校
- ▽五十一年(十五歳) 広域事業により亀田に大ゴミ処理場建設
- ▽五十二年(十六歳) 浅妻町長就任
- ▽五十三年(十七歳) 総合体育館完成・水害各地で被害
- ▽五十四年(十八歳) 日・中友好親善花大会を行う
- ▽五十五年(十九歳) 浄水場第二次拡張工事終了
- ▽五十六年(二十歳) 浅妻町長再選 野球場ナイター施設竣工



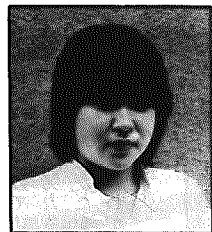
イノシシが出る(?)  
黒埼町  
北上 博子  
(学生 山田)

「家、どこなの? ク・ロ・サキ? 白根とか巻とかあつちの方でしょ」そういえば、ガキンチョのころ、バケツ持つて行ったことあるよ、理科の実験で使う「カエル」を採りにネ」

「まだイノシシが出るって本当?」

こんな会話が聞かれること、知ってますか? けつしてわたしだけではないと思うのですが、黒埼町のことを知らない人に会つたり、知つていてもメチャクチャな言い方をされたらした経験はありませんか? 夏の夜のカエルの大合唱はうなづけても、イノシシといつしよにされてはたまりません。「そんなにいなかじやないよ。バカにしないでよ」と言いたくなります。

なぜでしょうか。これだけ開発されてきたというのに、いまだに「いなか」というイメージがあるようです。田んぼが広がり、緑がいつぱいで、カエルが住めるくらいきれいな町という、よい意味での「いなか」で



実感がわかなかつた  
二十歳  
小林 淳子  
(銀行員 柳作)

昭和三十六年十一月二十五日生まれ。二十歳と八カ月。どちらかといえばもう二十一歳に近い。あまり、二十歳すなわち成人したという実感はない。

書類などに年齢を書き込むときも、成人となつたというより



……。なんていう考えを持つている若い人が、たくさんいるように思っています。

わたし自身、行動範囲が大部分新潟市にあるからだと思つていますが、黒埼町のことをよく知りません。このへんで、黒埼町を見直してみるのもよいと思うのです。もつといいイメージを、黒埼町以外の人たちに、アピールできるのは、若い人たちだと思ひます。

そして、何かみんなの前で胸を張つて言えることを、早く見つけたいと思つています。

……。実感がわかないのはわたし一人ではないだろう。実感はなくても、自覚は持たなければならぬと思うときがある。

二十歳の自覚とはなんだろう。わたしにもよくわからない。しかし、本人の意志にかかわらず、周囲の人たちは大人としてみるのだから、実感がわかないからという甘えは許されないと、思う。

今までは親や社会に保護されていたのだが、これからは自分一人だけで生きていけるようにならなくては。二十歳は二十歳、三十歳は三十歳。それなりの自覚を持つて生きていきたいと思ふが、二十歳となつた今が社会的にもいちはばん変化が現れるときなので今というときを大切にしていきて、精神的にも大きく伸びていきたいと思う。

さて、二十歳になつたので、選挙権が与えられた。国や県、そしてこの黒埼町の政治に関与することが許されたのは大きなことだ。

わたしもこの町に住んでいることを誇りにしたいし、町も誇りを持つる町になつてもらいたい。そして、りつぱな住民になれるように、自分をみがいていきたいと思う。